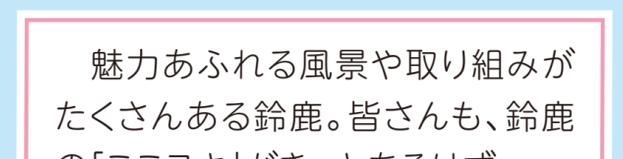




鈴鹿の魅力再発見!



#最高に住みやすいまち鈴鹿



For a Future Full of Smiles © Let's co-create the Most Livable City, SUZUKA!

魅力あふれる風景や取り組みがたくさんある鈴鹿。皆さんも、鈴鹿の「ココスキ」がきっとあるはず。

このコーナーでは、鈴鹿市公式インスタグラムに掲載している記事を紹介し、鈴鹿の魅力をお届けします。



お気に入りの風景

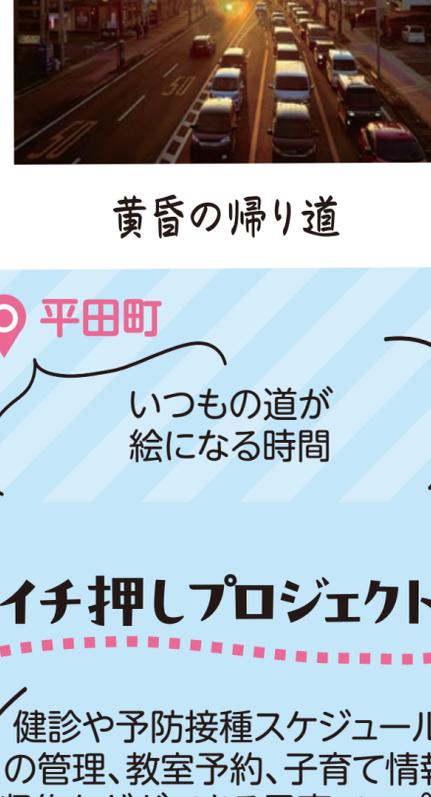


神戸のまちなか



神戸

散歩途中に梅を発見。春を感じるひととき



黄昏の帰り道



平田町

いつもの道が絵になる時間

イチ押しプロジェクト

健診や予防接種スケジュールの管理、教室予約、子育て情報収集などができる子育てアプリ

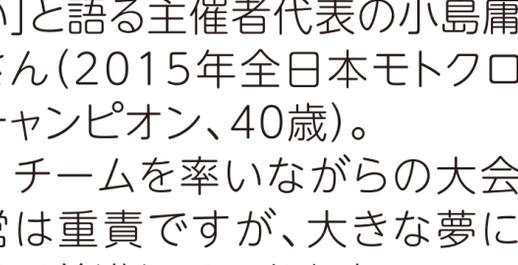
すずっこ子育てアプリ
妊娠から出産、育児までをフルサポート

初産料も無料!

すずっこ子育てアプリ

あの人のココスキ!

伊勢型紙協同組合 理事長 小林 満さん



伊勢型紙発祥の地!? 子安観音寺の不断桜

国指定の天然記念物である子安観音寺の不断桜。1年を通して葉や花が絶えず、真夏以外は枝のどこかに可憐な花を咲かせている魅力的な桜です。一説には、この桜の葉の虫食い模様が、伊勢型紙の発祥になったとも伝えられています。

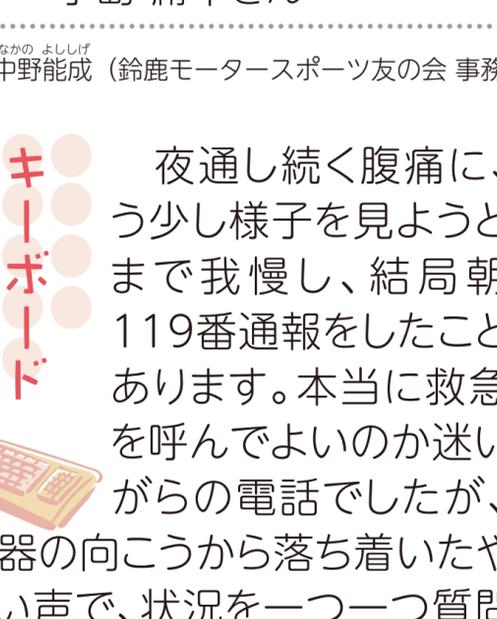
ひとまちモータースポーツ

全日本モトクロス選手権がいなべ市で開催

モトクロスの国内最高峰「全日本モトクロス選手権」。全9戦で争われるシリーズ開幕戦が3月15日(日)に「いなべモータースポーツランド」(いなべ市)で開催されます。同選手権の中部地区での開催は実に30年ぶり。加えて大会の主催を担うのは、昨年チャンピオンを輩出した本市拠点の「ベルズレーシング」の母体である「株式会社フォーティーフォー」(庄野羽山)です。

大会の特徴は、最高峰クラス(IA-1&2)と女性クラスのみで開催とし、1日で全てのレースを楽しめることや、アトラクションやファンサービス、出展ブースなどの快適な観戦環境を実現し、ファン目線で構成されたイベントパッケージになっていることです。「観戦だけでなく“共に楽しむ”イベントとして地域と連携したモトクロス文化を構築していきたい」と語る主催者代表の小島庸平さん(2015年全日本モトクロスチャンピオン、40歳)。

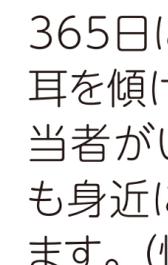
チームを率いながらの大会運営は重責ですが、大きな夢に向けて前進していきます。



▲小島 庸平さん

■中野能成 (鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード



夜通し続く腹痛に、もう少し様子を見ようと朝まで我慢し、結局朝に119番通報をしたことがあります。本当に救急車を呼んでよいのか迷いながらの電話でしたが、受話器の向こうから落ち着いたやさしい声で、状況を一つ一つ質問し、症状を確認してくれました。質問に答えていくうちに、自分の頭の中も整理され、不安な気持ちが和らいだのを覚えています。

今回の特集取材を通して、119番通報に対応する消防指令センターの役割について知ることができ、朝まで迷って電話したあの日に感じた安心の背景を理解できた気がします。

消防指令センターには、24時間365日にわたって、誰かのSOSに耳を傾けて最善の対応を尽くす担当者がいます。その仕事を少しでも身近に感じてもらえたらと思います。(慎)